

モゲ散歩

2023年度後期

まず最初にお話ししたいこと

- 今回は地名の話まで行かないと思います
- そのつもりでお聞きください

今日は歴史の話をするのですが

- 皆さんは古代文明は何と聞かれたら何と答えますか
- エジプト文明 > BC30C~BC1C : BC50C
- メソポタミア文明 > BC30C~BC4C : BC70C
- インダス文明 > BC25C~BC15C : BC70 C
- 黄河(中国)文明 > BC30C~BC3C : BC50 C
- 大河により農耕が発達した文明 文字や金属器使用
- マヤ文明 > BC10C~AD16C
- これは4大文明には含めない

ギョペクリテペ遺跡

- 1994年 ドイツの考古学研究所がトルコで発掘した
- 12000年前 新石器時代の遺跡
- 農耕は始まっていない





- 左はイノシシ ヘビ H型シンボル
- 赤、白、黒の顔料が残っていた
- 近くのカラハンテペ遺跡で発見されたもの
- 右はベンチに座る高さ2.45メートルの人の彫像
- 当時としては最大の彫像
- 巨大な石の施設

人類の知的能力の高さを感じる

- メソポタミアよりも前の時代に作られた
- 農耕技術を確認できていない
- その時代にすでに巨大な宗教的な施設を建設している
- 何のために誰がどうやって作ったかは分からない
- 現在までの調査では宗教のための施設であると考えられている
- 今後さらなる発見でどんなことが分かるのか













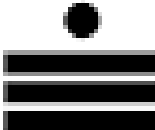



地名を考える時にふと思ったこと

- 8月に行った国立博物館の古代メキシコ文明展
- ここでマヤ文明の文字の展示を見る
- 今はかなり解読されてきているが、まだ解読されていない文字もある
- 文字は読めてもどのように発音していたのだろうか
- アステカやインカ文明を滅ぼしたスペイン人は詳細な記録を残しているので言葉についてわからないところは少ない > インカの文字は未解読部分もある
- では日本ではどうなのだろうかと考えた

マヤ文明の文字



数字

0	1	2	3	4
	●	●●	●●●	●●●●
5	6	7	8	9
	● 	●● 	●●● 	●●●● 
10	11	12	13	14
	● 	●● 	●●● 	●●●● 
15	16	17	18	19
	● 	●● 	●●● 	●●●● 

アステカの文字

- 記号化された絵と象形文字の2つの部分から構成
- 象形文字は暦の日付、数字、人名および官職、地名等
- 文章は構成しない
- モルポルチ テペク
- と書いてある
- スペイン語の注





マヤの暦

- 4000年前に作られた精密な暦
- 太陽暦とマヤ独自の暦を加え52年で1周りの暦となる
- この他にもいくつかの暦を利用している
- 将来も分かるようなものも存在する
- マヤの数字は20進法

インカ文字



- キープ文字と言われるもの
- 結び目で文字を表す
- この文字を解読できたのは高官
- スペイン人によって多くが殺された
- 解読ができていない
- 貯蔵する食糧の量を表しているらしい

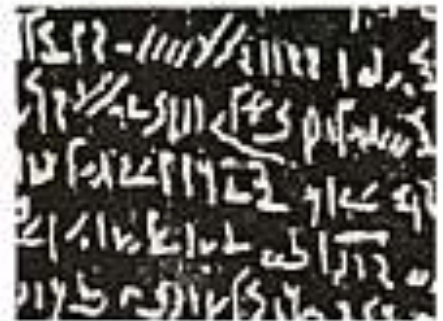
インダス文明



- 四大文明で使用されていた文字の中でまだ解読できていないのがこの文字

ロゼッタストーン

- BC196年にプトレマイオス5世によってメンフィスで出された勅令が刻まれた石碑の一部
- 1799年 ナポレオンのエジプト遠征の時にロゼッタで発見
- 同じ内容が3つの文字で書かれている
- 上段 ヒエログリフ
- 中段 エジプト民衆文字
- 下段 ギリシア文字
- これが解読の大きなカギになる



日本の場合

- 古墳時代には稲作と金属器が大陸からもたらされた
- その時に漢字も伝えられた
- 埼玉県稲荷山古墳から鉄剣が出土
- 115字を金象嵌で記す
- 辛亥の年471年(531年)に作られた
- ヲワケの臣がワカタケル大君に仕えたことを示すもの
- この時期に畿内の大君が力をもっていたことを示すもの



Z86. 稲荷山鉄剣の金象嵌

鉄剣の115文字

- 辛亥年七月記。平獲居臣。上祖名意富比◇ 其児多加利足尼
其児名互已加利獲居 其児名多加◆次獲居 其児名多沙鬼獲居
其児名半互比 其児名加恙◆余其児名平獲居臣。世々為杖刀人
首。奉事来至今。獲加多支鹵大王寺、在斯鬼宮時、吾左治天下令
作此百練利刀。記吾奉事視(?)湿(?)也。
- 辛亥の年七月に記す。私はヲワケの臣です。いちばんの祖先はオ
ホヒコ、その子はタカリノスクネ、その子はテヨカリワケ、その子はタ
サキワケ、その子はハテヒ、その子はカサヒヨ、その子がヲワケの
臣です。先祖代々親衛隊長として大王に仕え、いまに至っている。
ワカタケル大王がシキの宮にあるとき、私は大王が天下を治めるの
を助けてきた。そこで、このよくきたえあげた刀をつくらせ、私が大王
に仕えてきた由来を記しておく。
- これは当時の日本の言葉を漢語に書き写す
- 文字は音を当てはめている

日本で言葉をどのように残したか


- 前回「言霊」という話をしました
- 文字がない時代自分達の歴史や技術などを口伝で残してきた
- これを大陸から来た文字に変換して記録するようになった
- では、その時の言葉はそれ以前の人々が話していた言葉と同じだったのだろうか
- だいぶなくなってきたとはいいながら、今でも日本には多くの方言がある

地名に含まれる情報

- 言霊の時代、自分たちの身の回りの場所について意味のある名前を付けてきた > 地名
- 地名を紐解けばもっと色々なことが分かるのかも
- さて、私たちが学校で勉強してきた歴史を振り返ってみましょう
- 奈良時代の前は何という時代だったのでしょうか
 - > 飛鳥時代 聖徳太子(厩戸皇子)や蘇我馬子
- ではその前は何という時代だったのでしょうか

古墳時代

「邪馬台国」(やまたいこく／やまどのくに)を治めた「卑弥呼」(ひみこ)が没した頃から、権力者の多くは「古墳」と呼ばれる大型墳墓を築くようになりました。3世紀半ばになると古墳の築造はさらに活発化。日本列島各地に巨大な「前方...

 古墳時代の動画を観る ▶



百舌鳥・古市古墳

古墳時代

西暦

主な出来事

主な戦い

6世紀半ば

❖ 仏教伝来

「仏教」と聞くと、現代の人々は葬式や法事といった死にかかわる行事を思い浮かべることでしょう。しかし、仏教が伝来した古墳時代の日本は、海を隔てていた中国や朝鮮半島と比べると、文化的...

古墳文化

古墳時代の関連用語

- ▶ 大和政権・大和朝廷
- ▶ 磐井の乱
- ▶ 古墳
- ▶ 埴輪
- ▶ 須恵器

弥生時代

日本列島に本格的な農耕文化が根付いた時代を「弥生時代」と言います。縄文時代に主流だった狩猟や木の実採集から、稲作を始めとする農耕へと食料調達法が変化することで、集落単位での大規模な共同生活が定着しました。しか...



弥生人の衣服

西暦	主な出来事	主な戦い
2～3世紀ごろ	<p>❖ 邪馬台国</p> <hr/> <p>紀元前202年に東アジアを統治した漢帝国は、紀元後8年に王莽（おうもう：新[中国の古代王朝]の初代皇帝）によって滅ぼされますが、後漢王朝の初代皇帝である光武帝（こうぶてい）が後漢（ご...</p> <p>——— 関連する主な登場人物 ———</p> <p>卑弥呼</p>	<p>弥生文化</p>

弥生時代の関連用語

- ▶ 卑弥呼
- ▶ 邪馬台国
- ▶ 高床式倉庫
- ▶ 水稻耕作
- ▶ 弥生土器
- ▶ 青銅器
- ▶ 吉野ヶ里遺跡
- ▶ 登呂遺跡
- ▶ 鉄剣
- ▶ 銅剣
- ▶ 鉄刀
- ▶ 銅矛

旧石器時代

日本列島における「旧石器時代」(きゅうせっきじだい)は、人類が大陸より日本へ移住して来た頃から、縄文時代が始まる紀元前14,000年頃までとされています。旧石器時代は、縄文時代より用いられるようになった土器がなかったこと...



打製石器

縄文時代

日本列島に住む旧石器人によって築かれた「縄文時代」は、日本における最初の時代区分です。時代名称は、当時の人々が使用していた「縄文土器」から命名されました。縄文時代は、土器を使った食料の保存や、表面を砥石などで磨...



縄文人の住まい

この年表で何か気づいたことは？

- 古墳時代 3Cには全国に大型の古墳が作られた
- 2～3Cに邪馬台国があり卑弥呼によって統治されていた
- この記述は日本に文字がなかったので中国の文書に記載されている内容から考えられたもの
- 詳細が不明な分、邪馬台国がどこにあったかは分からず現在でも邪馬台国に関する研究が盛ん
- 主に畿内説が有力だが、北九州説など多彩

この年表にないもの

- 年代が記されていない
- 古墳時代が何時ごろからか
- 弥生時代は
- 縄文時代は
- 右の表は一般的な年代区分
- これでも皆さんが学んだものとは多少違うかも
- 古墳時代は7世紀ごろまで

1	旧石器時代	- 紀元前14000年頃
2	縄文時代	前14000年頃 - 前4世紀
3	弥生時代	前4世紀(前10世紀) - 後3世紀中頃
4	古墳時代	3世紀中頃 - 7世紀頃
5	飛鳥時代	592年 - 710年
6	奈良時代	710年 - 794年
7	平安時代	794年 - 1185年
8	鎌倉時代	1185年 - 1333年
9	建武の新政	1333年 - 1336年
10	室町時代	1336年 - 1573年
11	南北朝時代	1336年 - 1392年
12	戦国時代	1467年(1493年) - 1590年
13	安土桃山時代	1573年 - 1603年
14	江戸時代	1603年 - 1868年
15	幕末	1853年 - 1868年
16	明治時代	1868年 - 1912年
17	大正時代	1912年 - 1926年
18	昭和時代	1926年 - 1989年
19	連合国軍占領下	1945年 - 1952年
20	平成時代	1989年 - 現在

時代区分は正しいのか

- 古墳時代 7Cころまで
- 592年から飛鳥時代 推古天皇が即位した
- これ以前には崇峻天皇や敏達天皇の時代がある
- 蘇我馬子も活躍していた
- 石舞台古墳は蘇我馬子の墓ともいわれている
- という事はこの時代まだ古墳を作っていたのできっちり時代を分けることができなかった
- それ以降は支配者が変わるなど歴史事実が裏付けられているので時代区分はきっちり分かれることに

ではそれ以前はどうなるのか

- 古墳時代 3C中ごろ～
- 弥生時代 BC4C～AD3C中ごろ
- (BC10C)という記述
- 縄文時代 BC14000年ころ～BC4C
- それ以前を旧石器時代とする



- そこで中学校の歴史の教科書の年表を見てみよう

年代の書き込みがない

時代	縄文時代	弥生時代	古墳時代	飛鳥時代	奈良時代	平安時代															
世紀	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12											
年	約1万年前	239	538	593	604	607	630	645	710	741	752	794	894	935	939	1016	1156	1159	1167	1185	1192
できごと	<ul style="list-style-type: none"> ● 狩りや漁・採集を行って暮らす ● 石器・縄文土器の使用 	<ul style="list-style-type: none"> ● 朝鮮や中国から米づくりの技術が伝わる ● 弥生土器・鉄器・青銅器を使う ● 小さなくにが各地にできる ● 各地の豪族が古墳をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大和朝廷が各地の豪族を従えて国土統一を進める ● 各地の豪族が古墳をつくる ● 邪馬台国の卑弥呼が中国(魏)に使いを送る 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大陸から文化や技術が伝わる (漢字・土木技術・鉄の道具など) ● 大和朝廷が各地の豪族を従えて国土統一を進める ● 聖徳太子が政治の改革を行い、十七条憲法を定める ● 聖徳太子が摂政となる ● 大陸から仏教が伝わる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 大化の改新(天皇中心の国づくり)を始める ● 犬上御田鎌が初めての遣唐使として唐(中国)に送られる ● 小野妹子が隋(中国)に遣隋使として送られる ● 法隆寺の建立 	<ul style="list-style-type: none"> ● 平城京(奈良)に都を定める ● 中大兄皇子・中臣鎌足らが蘇我氏をたおし、大化の改新(天皇中心の国づくり)を始める ● 聖武天皇が各地に国分寺を建てさせる ● 古事記・日本書紀ができる ● 都づくりのために農民に多くの税がかけられる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 菅原道真によって遣唐使が停止される ● 現在の関東地方で平将門の乱が起こる ● 菅原道真によって遣唐使が停止される ● 平安京(京都)に都を定める ● 東大寺の大仏ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 藤原道長が摂政になる ● 藤原氏が栄える ● 清少納言が「枕草子」、紫式部が「源氏物語」を書く ● 瀬戸内海で藤原純友の乱が起こる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 藤原道長が摂政になる ● 藤原氏が栄える ● 平清盛が太政大臣となる ● 平氏が栄える ● 平治の乱が起こり、平清盛が政治の実権をにぎる ● 保元の乱が起こる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 源頼朝が征夷大将軍となり、鎌倉幕府をひらく ● 壇ノ浦の戦いで源氏が平氏をほろぼす 											



吉野ヶ里遺跡の竪穴式住居 (弥生時代)



平清盛

- 他の年表を見してみる
- 多少年代のズレがみられる
- 3000年前に稲作が伝わる



- 弥生時代は水稻の栽培が広がり金属器の利用、クニが形成されたとまとめられる

紀元前

旧石器時代

10万年前	日本列島に人類の痕跡が見つかる(金取遺跡で石器が出土)
18000年前	浜北人、港川人が出現

縄文時代 - 古代(縄文～院政期まで)

12000年前	縄文土器が出現、弓矢が使われ始めるなど、縄文文化が成立する
1万年前	海面が上昇(縄文海進)し、日本列島が出来る
5900～2200年前頃	青森県三内丸山で縄文人が生活
5000年前	縄文時代の最盛期
3000年前	稲作が伝わり、西日本で稲作が始まる

国立歴史民俗博物館の調査結果による

弥生時代

2700年前	東北地方で亀ヶ岡文化が栄え、遮光器土偶が作られる
2300年前	九州北部と北海道に鉄器、九州北部に青銅器が伝わる、佐賀県の吉野ヶ里に大規模な環濠集落が造られる
BC100～20年頃	倭国(日本)に100程のクニ(小国)が存在した(『漢書』地理志による)



新しい発掘等で歴史が書き換えられる

- 弥生時代は大陸から稲作と金属器がもたらされ、土器も実用に適した形に変わったと説明されている
- 九州北部の遺跡で見つかった土器に粳の圧痕があったのでこの時代に稲作が広がったと考えられる
- 九州の板付遺跡 1916年に土器と金属器
- 1950年に住居址と土器、粳圧痕
- 2400年前頃 > BC4Cという事から一般的にBC3Cには日本に稲作(水稻)が広がったと説明されている
- 3000年前には大陸から陸稻が伝わったと考えられている
> 長崎県雲仙の山ノ寺遺跡、大分県の大石遺跡

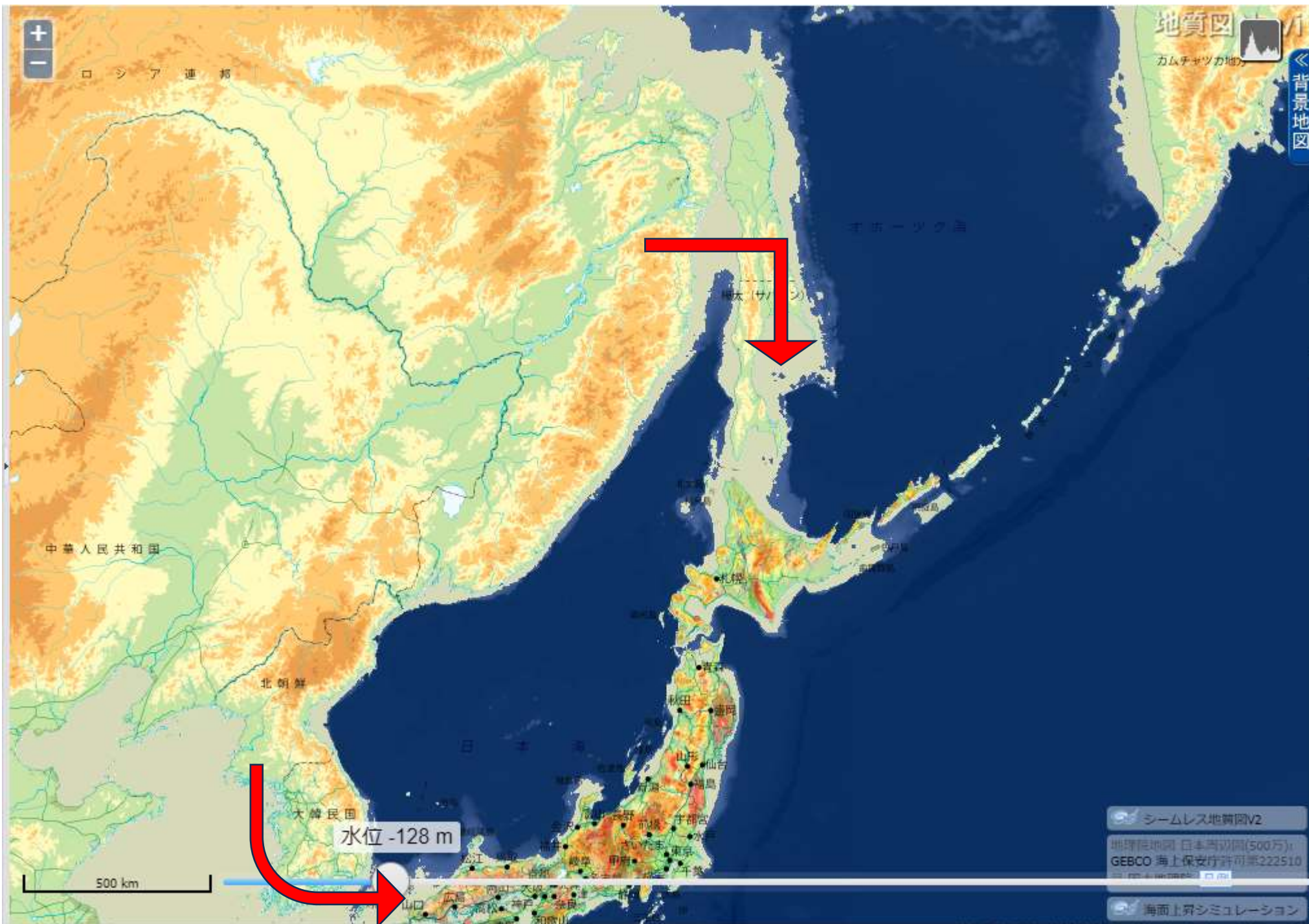
日本には何時ごろから人が住んでいた

- まず、日本列島はいつできたのか？
- 約7000万年前にアジア大陸の東端に変化が起きる



人類の登場と移動

- 400万年前にアウストラロピテクスが出現
- 南の猿人という意味
- 190万年前に現生人類の祖といわれるホモサピエンスが登場
- アフリカから世界に移動開始
- 日本列島には3～3.6万年前に人類がやってきた
- それ以降の時代を旧石器時代と呼ぶ
- 多分簡単な言葉を使っていたと考えられる



地質図naviを
使って海面を
128m下げた



氷河期が最大
になった時



21000年前

今まで分かっている古代人

- 旧石器時代の遺跡は群馬県の岩宿遺跡が有名
- 赤城山の南麓にある岩宿で戦後すぐ石器発見
- 昭和6年兵庫県明石で発見された人骨 骨盤と頭骨
 - > 明石人 旧石器時代は存在しないとされた
- 昭和42年沖縄本島南部の港川で発掘された人骨が4体
 - > ほぼ全身の骨がある 身長♂155cm ♀144cm
 - > 港川人 2～22000年前のものだと推定される
- 今後新発見があるかもしれない



明石人



港川人



もっとも貴重な
旧石器人の化石

明石人の化石

明石人の化石は、この地域で最も古いもので、その年代は約40万年前と推定されています。この化石は、明石の地層から発見されたもので、その発見は、この地域に古人類が居住していたことを示しています。

明石人の化石は、この地域で最も古いもので、その年代は約40万年前と推定されています。この化石は、明石の地層から発見されたもので、その発見は、この地域に古人類が居住していたことを示しています。

明石人の化石は、この地域で最も古いもので、その年代は約40万年前と推定されています。この化石は、明石の地層から発見されたもので、その発見は、この地域に古人類が居住していたことを示しています。

明石人の化石は、この地域で最も古いもので、その年代は約40万年前と推定されています。この化石は、明石の地層から発見されたもので、その発見は、この地域に古人類が居住していたことを示しています。

明石人の化石は、この地域で最も古いもので、その年代は約40万年前と推定されています。この化石は、明石の地層から発見されたもので、その発見は、この地域に古人類が居住していたことを示しています。

明石人の化石は、この地域で最も古いもので、その年代は約40万年前と推定されています。この化石は、明石の地層から発見されたもので、その発見は、この地域に古人類が居住していたことを示しています。

この骨格は、約40万年前に生きていたと推定される明石人の骨格です。この骨格は、明石の地層から発見されたもので、その発見は、この地域に古人類が居住していたことを示しています。

この流れの中で疑問に思う事

- 縄文時代にしろ弥生時代にしろ稲作が伝わったとある
- 水稲は中国の長江流域が原産とされているから中国から伝わった
- 海流に乗って稲粃が流れ着いたとは考えられない
- 中国に住んでいた人が稲粃をもって日本にわたってきたと考えるのが妥当
- 中国では殷から周に王朝が変わるとき
- 中国ではすでに文字を持ち、金属器も使っていた
- 日本に来た人々は全ての技術を持っていた

この流れの中で疑問に思う事

- 古来から日本に住んでいた人
- 稲作の技術を持ってきた人
- どうやって会話が成立したのだろうか
- 古来から日本に住んでいた人はどんな言葉を持っていたのだろうか > 今の日本語に近いもの？
- 複雑なことは手ぶり身振りだけで伝わるのか？
- 稲作に技術を持ってきた人はすべて同じ言葉を使っていたのだろうか？

豊かな想像力が必要となることも

- 当然のこと当時の状況を伝える文字はなかった
- という事は想像するしかない
- 今の日本語の中に何かヒントはないのだろうか
- 今私たちが使っている言葉と古代の人たちが使っている言葉は同じなのか？



- 縄文時代の日本人と弥生時代の日本人がどのような人だったかをまず考えてみようと思った

縄文人と弥生人

- 現在は縄文時代の遺跡から発見された人骨から縄文人の様子が分かってきている
- 縄文時代中期ぐらいまでは多くは死んだ後の埋葬という考えはなかったので墓地から発見という事ではない
- 後期になると集団墓や火葬も見られるようになる
- この時代には弥生人との交流も見られるようになっていくはず
- 縄文人と弥生人の混血も当然あったはず



縄文系	顔の特徴	弥生系
四角/長方形	顔形	丸/楕円
直線	造作	曲線
凹凸	プロフィール	なめらか
立体的	彫り	平坦
太い/濃い/直線	眉	細い/薄い/半円
濃い/多い	髭	薄い/少ない
二重	まぶた	一重
小さい	頬骨	大きい
大きい/福耳	耳たぶ	小さい/貧乏耳
広い/高い	鼻	狭い/低い
厚い	唇	薄い
小さい	歯	大きい
引き締まる	口元	出っ張り気味



■ あなたはどっち？

馬場先生の御著書から

縄文人

渡来系弥生人



ANN
NEWS



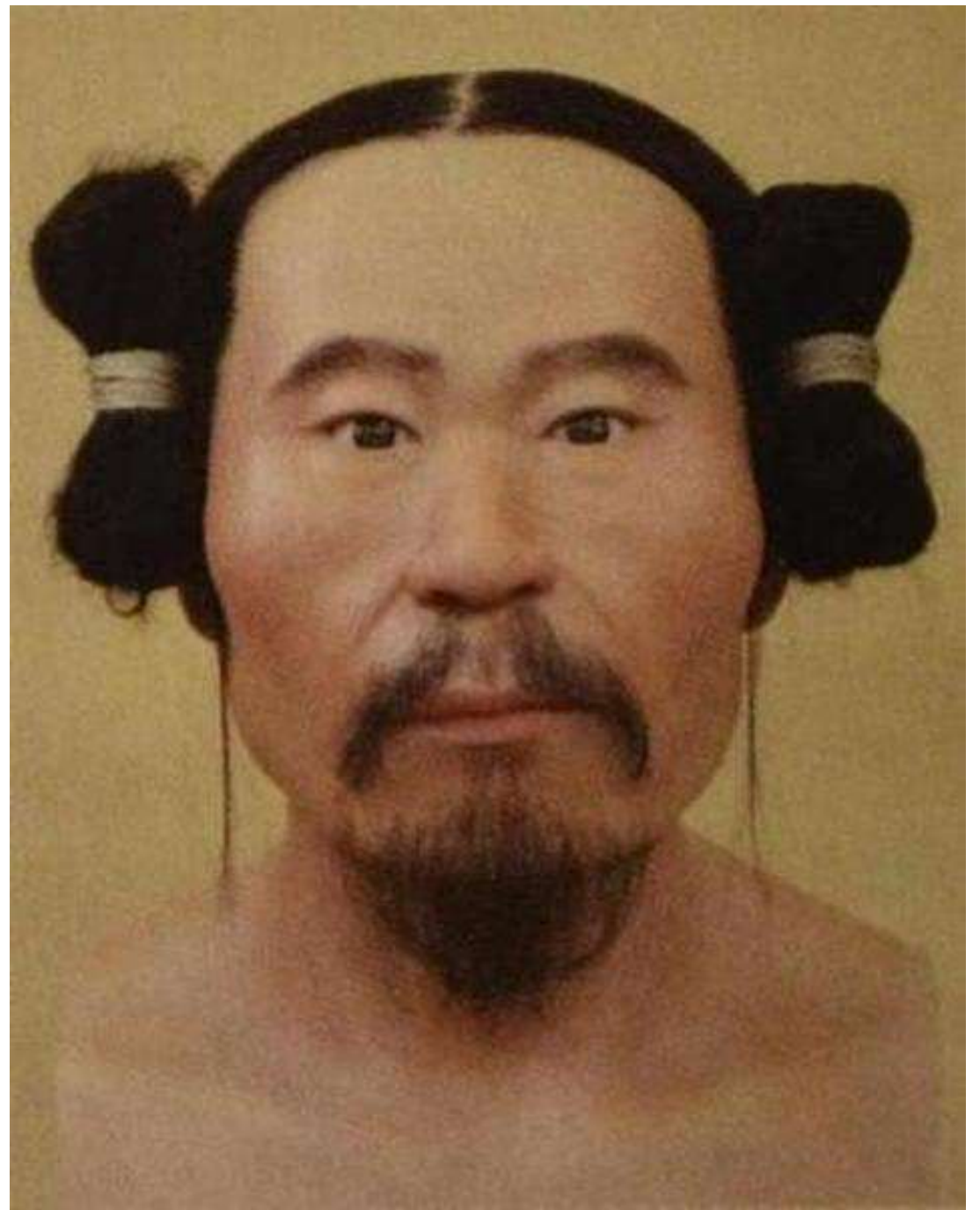
- 国立博物館の研究チームが遺伝子情報から復元した縄文人



- 国立科学博物館の2階に展示されている縄文人の復元模型



上は吉野ヶ里遺跡で復元された弥生人
右は金沢大学研究チームが復元した古墳時代人



見方を変えてみると

- 縄文時代は自然と共生していた
- 節分の「鬼は外、福は内」の掛け声
- 縄文時代の生活域を示している
- ウチ 自分たちが生活する範囲 一泊程度
- ソト 狩りに出たりする自分たちの生活範囲外
- そこには自分たちの命を脅かすものが存在
- 縄文時代は移動生活といわれる
- 縄文時代は狩猟採集経済で移動しながら生活

縄文時代の特色

- 現在の研究では長い間定住していたと考えられる
- 青森の三内丸山遺跡は縄文時代でありながら約5900-4200年前の1700年間も続いた集落跡
- 巨大な建造物 集団墓地 農業の痕跡など
- 中部地方の集落は50年程度で移動していく
- ゴミや排せつ物の処理ができなくなると移動
- 敵対する勢力が興ると移動する
- ゴミ・排泄物・不和・不安・不快・欠乏・病・寄生虫など悪しきものから逃れる

弥生人がやってくる

- 長い縄文時代の中に様々な刺激を受けて大脳が発達していく
- 縄文時代の中期は世界的に温暖な気候になる
- 森林の発達 > 草原にいた大型獣が減少していく
- ここでそれに対応した生活を身に着ける
- クルミやドングリなどの調理ができる
- より長い時間定住できるようになる
- 家の周りは薪炭材の為に木が無くなる > 雑穀の栽培
- そこに弥生人がやってくる

ここで言葉の問題を考えましょう

- 旧石器時代人 多くの語句を持っていなかった可能性が高い > 固有名詞が主 + 動詞
- 縄文人 旧石器時代との連続性から考えると語句が増えている > さらに複雑な文を使えるようになる



- この時に発生した地名がある
- 丘陵地帯にある低湿地
- ヤツ ヤト > 関東から東北にかけて見られる
- 谷津 矢津 扇ヶ谷 谷戸 八戸 屋戸

今に見る地名

- ヤト ヤツを漢字に当てはめる時に「谷」が使われる
- 渋谷 四谷 世田谷 日比谷 越谷
- これが関西に行くと「谷」をタニと読む
- 大阪池田市渋谷は「シブタニ」と読む
- 辞典では「谷はタニ 山の低くくぼんだ所。また川の源となる水が流れ出るくぼ地」
- 関西では「谷」を本来の意味で使っている
- これは稲作文化が入ってきて使われた語なのだろう

湿地に関する地名が多く残っている

- ニタ 仁田 似田 二田 似内(ニナイ) 似鳥 新田
- ヌタ 沼田 奴田 怒田 埜 新田
- ムタ 牟田 六田 無田 務田 >九州に集中
- クテ 久手 九手 長湫(愛知県長久手市長湫)
- フケ 福家 富家 布下 古毛 浮気 土深(トブケ)
- スワ 諏訪 諏方 須和 足羽(アスワ) >サワから
- アワラ 粟原 芦原 蘆原 荒原 淡原
- ウダ 宇陀 宇田 宇多 鵜田 入生田(イリウダ)
- >二音のことが多い

弥生人は縄文人を駆逐していない

- かつては縄文人は弥生人に取り込まれたか駆逐されたと考えられていた
- 弥生人は金属器を使う農耕民族というステレオタイプ
- 3000年前頃日本にやってきた弥生人は縄文人と平和に共生していたと考えられる
- 稲作はかなり長い時間を使って日本全体に広がる
- カミ宿る大地の名前が継続して伝わる
- 諺となる > 言 + 技 技 = 災い > 隠された神意

常陸の国の説話 夜刀神(ヤトノカミ)

- 夜刀神は角の生えた蛇
- 6世紀前半 この地にある谷間を開墾して田を作って継体天皇に献上した
- そこに夜刀神が群れを成して妨害した
- 麻多智という男がこれと戦い山に追い返し山の登り口にしるしを立てここから先は神の地と認め、ここから下は民の地であるとし。夜刀神を祀る神社を建立
- 海岸沿いの縄文遺跡から角のある蛇の装飾土器が出土 > 角のある蛇というものが神格化されていた

言葉の通じない人と出会ったら

- 言葉が伝わらない相手と対峙する
- 敵対するそぶりがなければ親善の意を示す
- 身振り手振りで話をしていく
- しかし細かい内容には入れない
- そこで相手の言葉を理解するための努力をする
- その努力の結果次第に相手の言葉を自らの言葉の中に取り入れながら発展していく
- 当時は文字はなかったので口伝で伝えることに

言葉を体系化していくためには

- ではその弥生人とはどのような人だったのか
- 弥生人は何処からやってきたのか
- 当然言葉は違っていたはず
- 彼らが使っていた言葉がどこかに残っていないか



- こういうことを考える学問が「比較言語学」
- 様々な言葉を調べその共通点を探して体系化していく学問

比較言語学でわかったこと

- きっかけは19Cにデンマークの言語学者がアイスランドの言葉がギリシャ語やラテン語に似通ったところがあることを発見した
- マダガスカルとインドネシアの言語にも似通った所がある > インド洋を隔てたところに交流があった



- 陸伝いで伝わったのか、直接海を渡ったのか
- つまり「いつ、どこで、どうやって」伝わったかは分からない

日本語の文法

- 私はあなたを愛しています
- 中国語 我愛你
- 英語 I love you.
- 韓国語 나는 너를 사랑해
- 日本の文法は韓国(朝鮮語)とほぼ同じ
- 同じ系統の言語であるといえる
- 日本語は母音が5つ
- 韓国語は母音が10 と違う
- 共通する語があまりない

共通点を探す

- タバコ カステラ コンペイトウ パン ボーロ
- コーヒー コップ
- これらの単語は外来語
- ではどこから伝わったものだろうか
- 単語は入り込んでしまえば日本語化してしまう
- ここから考えると海外からもたらされたものはそのまままたは多少変化があるものの日本語に定着する
- という事は日本に伝わった技術には伝えた国の痕跡が残っているはず

農業用語から考える

- イネ コメ アワ アゼ タンボ という農業用語はこれをもたらした国の言葉に共通点があるはず
- これらの言葉に対応する中国語、韓国語では音が大きく違っている



- 稲作がどこから伝わったかを考える時に有効
- コメにはインディカ種とジャポニカ種があり、それぞれにウルチとモチの違いもある
- 食用として加工するときに違いが出る

	ジャポニカ米 (日本型)	ジャバニカ米 (ジャワ型)	インディカ米 (インド型)
草の丈			
米の形	 短粒	 中粒	 長粒
炊き上がり	 粘りが強い 日本食向き	 やや粘る シソット・パエリア向き	 粘りが弱い カレー・チャーハン向き

- 日本に伝わったコメは最初赤米だったといわれる



- 最初からジャポニカ種だった？
- 陸稻から水稻

言語の関係を探るには

- 日本語と似通った言語はあるのか
- 文法的には似ているものがあるのか
- 単語の共通点・類似点があるものがあるのか



- 古代からどこの言語とも関わらず発展してきた
- 古代X語から分かれて日本語ができた
- 同様に分かれたY、Z語が存在するはず
- それを突き止めればどの系統に属するかがわかる

ALTAIC LANGUAGES

AMo Mongolic languages

- AMo1 Mongolian / Ordos
- AMo2 Oirat / Kalmyk
- AMo3 Buryat
- AMo4 Dagur
- AMo5 Monguor-Santa
- AMo6 Shira Yugur
- AMo7 Moghol

ATu Tungusic languages

- ATu1 Northern Tungusic (Tungus)
- ATu2 Southeastern Tungusic (Amur)
- ATu3 Southwestern Tungusic (Manchu)

AT Turkic languages

- AT1 Qashqai
- AT2 Salar
- AT3 Yugur
- AT4 Khalaj
- AT5 Khakas
- AT6 Tuvan
- AT7 Shor
- AT8 Altay
- AT9 Tofa
- AT10 Karakalpak
- AT11 Kazakh
- AT12 Turkish
- AT13 Chuvash
- AT14 Karaim
- AT15 Turkmen
- AT16 Azerbaijani
- AT17 Tatar
- AT18 Crimean Tatar
- AT19 Bashkir
- AT20 Uzbek
- AT21 Kyrgyz
- AT22 Gagauz
- AT23 Afshar
- AT24 Khorasani Turkic
- AT25 Uyghur
- AT26 Nogai
- AT27 Karachay-Balkar
- AT28 Kумыk
- AT29 Trukhmen
- AT30 Dolgan
- AT31 Sakha

AK Korean

AJ Japonic languages

agglutinating languages,
so the language family
is in dispute

分類中

URALIC LANGUAGES

UF Finno-Ugric

- UF1 Baltic Finnic
- UF2 Sami languages
- UF3 Permic languages
- UF4 Volga-Finnic
- UF5 Hungarian
- UF6 Ob-Ugric

US Samoyedic

- US1 Northern group
- US2 Southern group
- UY Yukaghir

The affiliation to the Uralic
languages is in dispute.

From a geographical point of view the
Turkic languages AT26 - AT29 are also
belonging to the group of the otherwise
isolated Caucasian languages.

Sketch: Dr. phil. İhsan Yılmaz Bayraktarlı
Cartography: Dipl.-Geogr. Maximilian Dörrbecker



日本語はどんな系統言語なのか

- テュルク語族
 - トルコ語、ウイグル語、ウズベク語、カザフ語
- ツングース語族
 - モンゴル諸語、満州語
- ウラル語族
 - 日本語、朝鮮語や、フィンランド語、ハンガリー語
- ドラヴィダ語族
 - タミール語

日本語の分類

- 北方起源による ウラル・アルタイ語族
- 朝鮮語 ツングース語 モンゴル語 チュルク語
- 南方起源による
- チベット語 ビルマ語 タミル語 オーストロネシア語
- 縄文時代は
- 東日本、北海道は北方起源の言葉 > アイヌ語
- 西日本、九州から沖縄にかけて南方起源の言葉
- 晩期に朝鮮語等が流入してくる > 混合して成立

比較言語学という学問

- 言語を分類するときにその共通点、相違点を知らべていく
- それぞれの言語の単語の比較をしていく

	英語	ドイツ語
日	day	tag
飲む	drink	trinken
神	god	gut
あれ	that	dass
思う	think	denken
3	three	drei
世界	world	welt

	東京	宮古島
歯	ha	pa
旗	hata	pata
晴れ	hare	para
墓	haka	paka
船	fune	puni
幅	haba	paba
初	hatu	patsu

	東京	タミル語
歯	ha	pal
旗	hata	patam
晴れ	hare	para
墓	haka	pokkanai
船	fune	punai
幅	haba	pampal
初	hatu	patu

お正月の行事の類似

- 日本
- 元旦 丸餅を重ねて神に供える
- 15日 ドンド焼き カラスに食べさせる
- 若水を汲み桶に花を供える 井戸に餅を供える
- 小豆粥を作る
- インド南部
- 14日 古いものを集めて焼く
- 15日 縄にマンゴの葉をつるし井戸に供える
- 新しい壺で水を汲み壺に花を供える
- 新しい水で赤米と豆で粥を作る カラスに食べさせる
- 砂糖と米を混ぜ練った米粉で包み蒸して山の形にして神に供える

日本語の祖先は不明

- 今までの話で結果を導くとすれば
- 日本語の祖先は分からない
- 謎の多い言語であるという事が分かる
- タミル語との関連は大野晋氏の説
- 外国人にとって日本語は難しい言語という
- それを操る私たちは世界に誇れることだといえる

比較言語学の限界

- 言語の共通性を発見して分類することは可能
- それぞれ固有の言語を持っていたはず
- 交流によって言語が伝わり固有の言語と融合して新しい言語が出来上がっていく



- いつ、どうやって伝わり、それがどのような過程で変化したのかは分からない
- 言語がどのように融合していったのかが分からない

余談ですが

- 日 本語の難しさの1つ 数え方
- 1回 2回 3回
- 1階 2階 3階
- 1本 2本 3本 4本 5本 6本 7本 8本 9本
- これは匹 杯でも同じ
- 疑問文では あなたは何本鉛筆を持っていますか？
- この変化を正確に覚えるのは大変
- 若者言葉の蔓延が美しい日本語を変化させてしまう

昔と今での違いもある

- 室町時代までは「は」=ha という音はなかった
- 「は」はfa という音だったといわれている
- 濁音も子音の前にn mの音が入っていたという
- 「小学校」を読んでください
- しょうんがっこう > やわらかい感じになります
- 森 茂 > もりしんげる
- 羽柴秀吉 > ふあしむばふいでよし

今回参考にした文献

- 地名の謎を解く 伊藤ひとみ 新潮選書
- 日本の先史時代 藤尾慎一郎 中公新書
- 農耕社会の成立 石川日出志 岩波新書
- 日本語の起源 大野晋 岩波新書
- 日本列島人の歴史 斎藤成也 岩波ジュニア新書